こけら落とし公演［演題解説］

祇園の風情 色濃く

第四景／第七景 -座敷舞の雰囲気-

今回の公演は、耐震改修工事を終えた祇園甲部歌舞練場で7年ぶりに開催されることを祝い、祇園がより栄えていくことを願うのが主なねらい。そのため全八景の舞台も祇園を中心に祝いの心を紡いでいく構成になっている。植木さんによると、都をどりは、公演そのものはもちろん、公演を観覧してから外へ出たとき、舞台と重ねて祇園町ならではの風情も楽しんでもらう側面があるという。今回は本来の場所に戻っての公演でもあるので、地元である祇園にかかわる景を中心に構成している。また、芸妓・舞妓がそのままの姿で役として登場する場面を特別に二つに増やしているのも、これまでにあまり例のない特徴だそうだ。

その一つが第四景の「祇園祭祝鷹山」。昨年の祇園祭で196年ぶりに山鉾巡行に復帰した鷹山の地元の三条衣棚町付近を背景にしている。前半は宵山でにぎわう夜の場面、後半は昼の巡行の場面で、歴史的な復活を祝う役として芸妓・舞妓7人が登場する。もう一つが第七景の「茶屋座敷雪見舞」。祇園の風情を色濃く出すために雪化粧の祇園町を表現しており、浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」の七段目「一力茶屋の場」にちなむお茶屋一力亭が舞台背景。芸妓・舞妓7人が雪の庭へ続く座敷で舞う。普段はお茶屋遊びのときでしか、なかなか観ることのできない座敷舞の雰囲気が味わえる。

第二景／第六景 -京の名所が背景-

都をどりは、例年その年が節目となる慶事を取り入れていて、今年は鎌倉時代に浄土真宗を開いた親鸞の生誕850年、立教開宗800年に当たることから、東本願寺・西本願寺をそれぞれ取り上げる。第二景の春の舞台は、梅の名所を舞台とするのが恒例となっている。「西本願寺梅花揃」として、梅の花とともに一昨年9月に修復が完了した西本願寺唐門を配している。10人の総踊りを展開する。第六景の秋の舞台が「渉成園紅葉水鏡」。東本願寺の飛地境内地にある回遊式庭園の渉成園（枳殻邸）を背景に紅葉が映える情景を楽しんでもらう。12人の総踊りとなる。

天空の世界を描いた第五景の背景画の下絵　美術：㈲川面美術研究所

渉成園の紅葉

第三景 -祝意あふれる舞-

祝いの心をとりわけ表しているのが、第三景「猩々福舞」。めでたいときに舞われる能「猩々」をモチーフにしている。猩々は、元々中国の古典に登場する人間に似た架空の動物だ。高風という親孝行の男が、仲良くなった大酒飲みの猩々から贈られたのは、酒をいくら汲んでも尽きない不思議な壺。これは高風が見た夢の中の出来事なのに、その壺だけは家に残っていて高風の家は末永く栄えたという伝説にちなむ。背景は高風が猩々を待つ潯陽の江（揚子江）のほとり。赤い獅子頭姿の猩々に扮した4人が華麗な舞を披露する。

第五景 -七夕伝説の物語-

地上の祝いの舞台から一転して天空の舞台へ移るのが、第五景「織姫彦星七夕語」。全八景で唯一、ストーリー性のある語りの付いた浄瑠璃の演目になる。七夕伝説を取り上げたねらいについて、植木さんは「祇園の繁栄が天空にまで広がっていくようにとの思いを込めた」と語る。七夕伝説で登場するのは織姫と彦星、二人の仲を引き裂く天帝の三人だが、今回はもう一人、独自の役として天帝の后も登場し花を添える。登場人物の髪型や衣装は中国風に仕上げられている。天の川を背景に天空に架かる橋を表現した、大道具や照明の演出も見どころの一つ。

第八景 -芸妓・舞妓勢ぞろい-

フィナーレの第八景は祇園町の氏神である八坂神社で締めくくる「八坂神社霞桜」。2020年に本殿が国宝に指定され、境内外の建物26棟が重要文化財に追加指定されたことへの祝意も込める。平安遷都以前からある同神社が、これからも祇園町を守り、繁栄に導いてくれるようにとの願いを込め、本殿と満開の桜を背景に芸妓・舞妓39人が勢ぞろいして圧巻の舞を繰り広げる。

慶事の舞台、天空まで広がる

国宝に指定された八坂神社本殿

祝意と繁栄の心紡ぐ全八景

新装歌舞練場のこけら落とし公演となる第149回都をどり。作詞・構成を担った植木朝子さん（同志社大学長）の解説をもとに、演題「新華舞台祇園繁栄」の趣旨や全８景それぞれの意味と背景、世界観など今公演の特徴と観賞のポイントをまとめた。

第一景 -銀襖の背景が定番-

第一景「置歌」では、公家御殿のしつらいである銀襖の背景が決まりになっている。京舞が江戸時代から公家の御殿で演じられてきたことがその理由。掛け声とともに銀襖の本舞台にそろいの衣装をまとった芸妓・舞妓16人が入場し、一糸乱れぬ総踊りを披露する。

総踊りの舞い手が身を包む京友禅の振袖は、藍地にしだれ桜を配した伝統の図柄が基本だが、毎年、違った紋様を取り入れて西陣織の帯とともに新調されている。今回の衣装は「蛇竜に橋のある景」と称して、清らかな流水と、川を越えて前に進むことを示す橋、魔除けの蛇竜の紋様を中心に四季の草花を配置した図柄になっている。帯は「祇園栄華文」と称して八坂神社の紋の一つ「五瓜に唐花」と、神社の建物に用いられている釘隠しの紋様を流水でつなぎ、祇園町の繁栄を祈る図柄に仕上げてあるという。各景で芸妓・舞妓がまとう衣装も、演目や登場人物の特徴に合わせて緻密に作り込まれている。

一糸乱れぬ総踊り

歌舞練場で先月22日、今年の総踊りの衣装が披露された

植木朝子さん

立方の芸妓・舞妓の舞だけでなく、地方の芸妓による唄や三味線などの演奏も聴き逃せない。近年、歌詞はすべて植木さんが創作しているが、より演出効果をねらって唄に変化をつけたのが第七景「茶屋座敷―」。上方を中心にうたわれてきた地唄の代表曲「黒髪」の一節を取り入れている。黒髪は、愛しい恋人を思いさみしさを募らせる女性の心情を描いた唄。江戸で発達した長唄ではなく、上方に定着している地唄によって、しっとりとした舞と情景がいっそう引き立つ。他にも、第五景「織姫彦星―」では、物語性を出すために義太夫の語り調の歌詞を入れていたり、第三景「猩々―」には能の言葉を織り交ぜたり、韻の踏み方が全景にわたって工夫されていたりと、歌詞の一曲一語に創意があふれている。

植木さんは「都をどりには研ぎ澄まされた美の意識が結晶している」と強調する。井上流の舞と格調高い唄や邦楽器の演奏だけでなく、舞台の細部にまで作り手の熱い思いと確かな技が詰まっているのが都をどりだという。背景画はその美しさもさることながら、衣装の色や舞い手の背丈までに合わせ細やかな工夫がされていて、ちょうちんの明かりも含めた光の妙味が心を揺らす。こうした点にも目配りして観覧するのも一興、理屈抜きにただ楽しむのもまた一興だ。

歌詞に込められた創意工夫

も考慮して、立ち居振る舞いが映えるように描かれている。また、素早い舞台転換にも匠たちの技が発揮される。照明も各場面をより効果的に見せるため、演目

― 都をどりの歴史 ―

1872（明治５）年	京都博覧会の附博覧として、第１回都をどりを開催
1873（明治６）年	建仁寺塔頭旧清住院を歌舞練場に改造し、第２回都をどりを開催
1884（明治17）年	旧歌舞練場で開催した都をどりで京都初の電気燈実験
1895（明治28）年	平安遷都千百年紀念祭。春に続き秋にも第26回都をどりを開催
1913（大正２）年	祇園甲部歌舞練場が現在地に竣工
1915（大正４）年	大正天皇の即位大礼・御大典奉祝記念として秋にも第47回都をどりを開催
1928（昭和３）年	昭和天皇の即位大礼・御大典奉祝記念として秋にも第61回都をどりを開催
1944～49（昭和19～24）年	太平洋戦争により休演
1950（昭和25）年	７年ぶりに第77回都をどり開催。南座にて
1953（昭和28）年	祇園甲部歌舞練場の大改修工事が完了。第80回都をどりを開催
1964（昭和39）年	秋にも東京五輪記念の第92回都をどりを開催
1972（昭和47）年	創始100年記念として第100回都をどりを開催
1994（平成６）年	平安建都千二百年を記念し第122回都をどりを開催
2001（平成13）年	皇太子さま（今上天皇陛下）が第129回都をどりを観覧
2016（平成28）年	祇園甲部歌舞練場が耐震改修のため休館
2017・18（平成29・30）年	京都芸術劇場春秋座で「都をどりin春秋座」を開催
2019（平成31）年	新装された南座で開場記念の都をどりを開催
2020・21（令和２・３）年	新型コロナウイルスの感染拡大により休演
2022（令和４）年	３年ぶりに都をどりを南座で開催。祇園甲部歌舞練場の耐震改修工事が完了

〈公演情報〉 令和五年 祇園甲部歌舞練場 新開場記念 柿落し公演　第149回 都をどり

開催期間	４月１日（土）～30日（日）
開演時間	１回目／12:00～（11:00～）　２回目／14:20～（13:20～）　３回目／16:40～（15:40～） ※１日３回公演　上演時間／約１時間　※（　）内はお茶席の時間。公演後のお茶席はありません
料金（税込み）	茶券付一等観覧券：7,000円　一等観覧券：6,000円　二等観覧券：4,000円 公演プログラム：700円　イヤホンガイド（日本語版／英語版）レンタル料：700円
チケット購入方法	オンラインチケット（右記QRコードから）または電話で受け付け 都をどり　※オンライン会員登録（無料）が必要です。 TEL.075-541-3391（平日10～17時）※公演によっては満席の場合があります。
アクセス	祇園甲部歌舞練場　京都市東山区祇園町南側570-２ 京阪電鉄「祇園四条駅」６番出口より徒歩８分 阪急電鉄「京都河原町駅」１番出口より徒歩10分 JR「京都駅」から車で約20分

祇園甲部歌舞練場 新開場記念 都をどり特集

創業1847年
手づくり金平糖
緑寿庵清水
伝統を守り続けた本当の味・色・形
京都本店 京都市左京区吉田泉殿町38番地の２ TEL (075) 771 - 0755
祇園店 京都市東山区祇園町南側570の122 TEL (075) 532 - 0900
銀座店 東京都中央区銀座6-2-1 TEL (03) 5537 - 9111
http://www.konpeito.co.jp

都をどりの思い出に
京都限定
桃山雲居のみち®
抹茶餡入

京都四條南座店 電話〇七五－五六一－五八七八
京都市東山区大和大路四条下ル
京都一条店 電話〇七五－四四一－三一一一
京都市上京区烏丸通一条角 広橋殿町四一五
とらや

都をどり お茶席 御用
柳桜園「小櫻」
宇治茶 祇園辻利「弥栄の白」
morihan 森半「上別儀」
一保堂茶舗「孫生の白」

日本伝統文化入門公演
ギオンコーナー
2023.3.13 リニューアルオープン
7つの伝統文化や伝統芸能を一度に鑑賞
祇園甲部歌舞練場小劇場では、舞妓による京舞をはじめ狂言、舞楽、茶道、華道、箏曲、文楽、能など日本が世界に誇る伝統文化や伝統芸能をダイジェストで約1時間でご覧いただけます。

※時期によって文楽・能のどちらかを上演
公演日時 毎日 18時00分～／19時00分～
会場 祇園甲部歌舞練場小劇場
入場料金 ●大人（23歳以上）…¥5,500(税込)～
※その他席種ございます、お電話でお問い合わせ又はHPでご確認ください。
お問い合わせ TEL.075-561-1119 ギオンコーナー 検索
■運営：（公財）京都伝統伎芸振興財団（おおきに財団）